

第1学年2組 道徳指導案

第5時限 1の2教室

指導者 加藤 美菜

1 主題名 だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して 【C(10) 遵法精神、公德心】

2 資料名 ごみ箱をもっと増やして(新しい道徳1 p83~p85(東京書籍))

3 主題設定の理由

公德心とは、社会の一員としての自覚に基づき、公共のマナーや利益を守ろうとする心である。社会には、誰もが気持ちよく過ごすことができるように、いろいろなルールやマナーがある。それだけでなく、助け合うことや、周りのことを考えて行動することも必要である。生徒たちは学校や学級といった集団の中で、いろいろな役割をもったり、グループ活動を行ったりする中で人との関わりを学び、成長していく。本資料を通じて、集団の中でのよりよい暮らしについて考えていきたいと考え、本主題を設定した。

本学級には、明るく、友達思いな生徒が多い。放課は仲が良い友達同士で話したり、友達の分の配付物も持って行ったりする生徒が多くいる。係の仕事はきちんとなし、与えられた役割は責任をもってなしとげようとしている。しかし、教室に個人のもを出しっぱなしにしまったり、落ちている誰のものでもないごみは拾わなかったりすることがある。また、自分の係ではないことには手を出さないなど、周りのために行動しようとする意識が低い。いつか社会に出た時に、集団の中で誰もが気持ちよく、そして周りのことを考えて生活できるようになってほしい。

本資料は、公共のごみ箱の設置について様々な意見が書かれている。本校の校区にもコンビニの入り口や自動販売機の横にごみ箱があり、多くの人が利用している。身近なものとして捉えやすく、具体的な場面をイメージしながら必要性について考えさせることができるだろう。授業では、資料をもとに自分の意見を見つけ、議論から理由を追求させることで考えを深めさせる。本授業で公德心について考えることで、集団生活で今後自分がどのようなことに気をつけて行動できるとよいかということに考えをつなげていきたい。

本時では、資料をもとに、日本のごみ箱を増やすことに賛成か反対かについて、理由も含めて考える。ごみ箱を増やすと、ポイ捨てはなくなるかもしれないが、ごみの回収、袋の交換など、人件費などのコストがかかる。ごみ箱を減らすと、道や公園などの公共の場所にごみが増えてしまうかもしれない。いつもごみ袋を持ち歩いているわけではないので、ごみを持ち帰ることができない人もいるかもしれない。日本は、テロ対策やカラスなどの荒らしの防止、清掃員などにかかるコスト削減といった理由から、世界でもごみ箱の少ない国である。様々な視点で考えることができるように、いろいろな国の写真や映像を見せ、考えを深めていきたい。「心のメーター」を使い、賛成、反対の割合を視覚化することで、自分の考えがわかりやすくなるとともに、グループでの話し合いもしやすくなるだろう。その後の、だれもが気持ちよく生活するために心がけたいことにつなげるように、理由を深く追求させる。そこから、誰かがやるだろうではなく、誰もが気持ちよく生活するために自分が心がけたいことを考える。社会に出る前の練習として自分だけでなく周りのことも考えて生活できるようになってほしい。

4 本時の指導

(1) 目標

みんなが気持ちよく生活するためにはどうしたらよいかを考え、よりよい環境にするために行動する意欲を高める。

(2) 過程

| 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
|--|---|
| 1 ごみ箱について考える <ul style="list-style-type: none"> ・あまり外ではごみ箱を見ない。 ・コンビニで見たことがある。 ・世界のごみ箱はおしゃれ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ箱について興味をもてるように、日本や世界のいろいろなごみ箱の写真を提示する。 |
| <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 日本のごみ箱を増やすことに賛成か、反対か </div> | |
| 2 範読を聞き、自分の考えをもつ <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ箱を増やせばポイ捨てする人は減り、きれいな環境でみんなが過ごせる。 ・いつもごみ袋を持っているとは限らないから、増やしてほしい。 ・持ち帰る前提で袋を持っていればよい。 ・ごみ箱がなければ持ち帰る人も増えるので、マナーがよくなると思う。 ・ごみを片づけてくれる人もいるので、その人のことを考えると持ち帰った方がいい。 ・ごみ箱を管理するのが面倒くさいから、増えない方がよい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを視覚化し、立場を明確にすることができるように、「心のメーター」を用いる。 ・様々な考え方を知ることができるように、グループで話し合い、意見を共有する。 ・様々な視点で考えることができるように、ごみ箱を増やす方に賛成の意見については、ごみを収集する映像を見せる。反対の意見については、ごみが散らかっている様子を見せる。 ・3の発問につなげることができるように、理由を深く追求していく。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> みんなが気持ちよく生活するために、心がけたいことはなんだろう </div> | |
| 3 これから心がけたいことを考える <ul style="list-style-type: none"> ・ごみは自分で片づける。 ・ルールを守る。 ・相手の気持ちを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことをきちんと振り返り、これからどうしていきたいかを考えさせられるように、学校や家でなど具体的な場面を想像させる。 ・いろいろな考え方に触れられるように、周りのことを考えられている意見をもつ生徒を意図的に指名して全体で共有する。 |
| 4 授業の振り返りを書く <ul style="list-style-type: none"> ・学校でも、みんなのことを考えて過ごしていきたい。 ・係の仕事を忘れずにやっていきたい。 | |

(3) 評価

みんなが気持ちよく生活するためにはどうしたらよいかを考え、よりよい環境にするために行動する意欲が高まったか、発言の内容やワークシートの記述から判断する。